

算数科学習指導案

授業日 令和5年7月3日

学習者 3年4組 30名

授業者 伊東 聡子

1. 単元名「あまりのあるわり算」

2. 単元の目標

わり切れない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の関係に着目し、数学的に処理した過程を振り返り、今後の学習や生活に活用しようとする態度を育てる。

3. 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について、理解し、それらを活用して数量の関係をとらえることができる。	数量の関係に着目し、わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算に成り立つ性質について考え、説明している。	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り、数学的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

今までとちがう、いくつか分をもとめる計算の仕方を考えよう。

4. 単元計画と学習評価（全8時間）

時	学習内容	学習評価（知・思・主）〈方法〉
1 (本時)	【あまりのあるわり算】 数量の関係に着目して余りのある包含除の計算の仕方を考える。	【思】わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合の除法を基に考え、図や式を用いて説明している。[行動観察・交流・ノート]
2	数量の関係に着目して余りのある包含除の計算の仕方をまとめる。	【知】既習の除法の計算方法を用いて、わり切れない場合の除法についても計算することができる。[発言・ノート]
3	余りと除数の関係を調べ理解する。	【知】余りが除数より小さくなることを理解し、計算することができる。[発言・ノート]
4	包含除の計算の仕方から類推して余りのある等分除の計算の仕方を考える。	【思】わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、既習の等分除の計算の仕方を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。[発言・交流・ノート]
5	余りのある場合の除法計算の答えの確かめ方を考える。	【知】わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。[発言・ノート]
6	余りのある場合の除法の計算練習、文章問題の解決をする。	【知】わり切れない場合の除法の計算の商や余りを求めたり、確かめたりすることができる。[発言・ノート・プリント]
7	【あまりを考える問題】 問題場面に応じて、余りのとらえ方を深める。	【主】計算した結果を振り返り、学習に生かそうとしている。[行動観察・ノート] 【思】商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。
8	【まとめ】 たしかめよう／つないでいこう 算数の目／おもしろ問題にチャレンジ	【知】基本的な問題を解決することができる。[テストプリント] 【思】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。[発言・交流・ノート] 【主】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。[発言・交流・ノート]

5. 本時でめざす子どもの姿

○ $14 \div 3$ の答えの見つけ方について考え、具体物や図、式を用いて説明している。【思・判・表】[発言・交流・ノート]

6. 仮説との関連

① 「やってみたい」と思える課題設定の工夫（仮説1）

児童の「やってみたい」を引き出すために、既習の除法では答えを出すことができない問題ではあるけれど、既習の除法の考えが使えるそうだということを明確に提示することで見通しをもたせ、個々の学習意欲を喚起する。

